

今年3月3日マリントピックスでお伝えした通り、スペインでは2月から3月にかけて港湾労働者組合がストライキ宣言と中止を繰り返していました。現在、5月24日から6月9日のうち特定の8日間にストを行うとされており、港湾混雑が予想されます。今号では、スペインをはじめブラジル、スウェーデンなど世界各地のストライキの情勢と物流への影響をお伝えいたします。

1. スペイン港湾、度重なるスト宣言と中止による混乱

スペイン政府は長年にわたり、『欧州連合の機能に関する条約』に違反すると問題視していた港湾労働者の雇用慣行に対し、条約に則った具体案提示を港湾労働組合に求めてきました。これに対抗して港湾労働者組合は今年2月からスト宣言を発表しては実行前の中止を繰り返していましたが、中止発表がストライキ予定日の直前に行われたため、宣言を受けて既に運航をキャンセルした船舶があるなどし、各港湾で混乱が生じた模様です。

その後、5月12日にスペイン閣僚は欧州連合規則に従いスペイン港湾法を改正する勅令を承認し、18日に議会での検証が予定されていましたが、スペイン政府が本法案の作成にあたり港湾労働者組合に相談しなかったことを不服とし、港湾労働者組合は右記(5月24日、26日、29日、31日、6月2日、5日、7日、9日)の8日間で不規則な時間にストライキを行うと発表しました。具体的な日程が発表されたことで港湾混雑の影響は不可避と見込まれます。

2. ブラジルでのストライキによる混乱

ブラジルでは4月28日に、テメル政権が進める労働規制緩和に反対するゼネラルストライキ(一企業や組織によるストライキではなく、全国的な規模で行われるストライキ。略してゼネスト)が21年ぶりに実行されました。昨年5月にルセフ前大統領の職務停止以降、それまで副大統領を務めていたテメル氏が後任となったと同時に厳格な社会保障改革を推進しており、複数の労働組合がこれに反抗しゼネストを呼びかけたものです。



ゼネストにより封鎖された街は閑散とした。4月28日、ブラジルのリオデジャネイロ港にて

(写真:ロイター/アフロ)

ゼネストによる各港湾の影響は

当初予想されたほど重くはなかったため、事態は好転するよう見られたものの、Receita Federal(連邦国税庁)の労働組合がテメル政権に反抗し5月16日と17日にストライキを実施しました。ブラジル主要港のサントス港では港湾作業量が大幅に低下し、通常1日で済む荷降ろし作業が3~4日、時にそれ以上かかって行われるなどしました。さらに5月22日から1週間のストライキ継続が報じられたため、混雑はさらなる長期化が見込まれます。



3. スウェーデンでのストライキ

スウェーデンでは、スカンジナビア最大のコンテナハブであるヨーテボリ港の APM ターミナルにおいて労使間の争いが続いています。繰り返されるストライキに対して使用者側である APM ターミナルが 5 月 19 日から 6 月 30 日にかけて部分的にロックアウトを宣言しました。この 6 週間のロックアウトでは平日は午前 7 時から午後 4 時までに業務時間を制限し、週末は通常の営業時間とするものです。この影響を受け、複数の船社が予約を受け付けないことを発表し、ヨーテボリ港での積み替えを周辺港に変更したことで船社には追加コストが発生したと報じられました。

APM ターミナルはスウェーデン全体のコンテナ輸送量の 50%を占めており、ストライキによる混乱などで過去半年で生産性が 20%低下したとされています。これはコンテナ量に換算して週 2,000 コンテナに相当する量であり、輸出入において甚大なビジネスチャンスが奪われていると言えます。

4. 今後の見通し

いずれの国も労使間の主張は並行線を辿っており、協議が合意に至るか、宣言されたストライキ期間終了後しばらくまでは引き続き混乱が続くと予想されます。

各国を経由する輸送に関しては、今後も現地の最新情報のアップデートが待たれます。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html